

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO **iDWR**

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2013年第33週
(8月12日～8月18日)

- * 2013年8月21日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「鶏肉の生食と食中毒」も記載しています。

平成25(2013)年8月22日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数（一類～四類） 2013年33週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		30週	31週	32週	33週	年累計	33週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							1
	結核	69	71	61	65	2,492	337	16,693
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
指定	鳥インフルエンザ(H7N9) *2							
三類	コレラ						1	2
	細菌性赤痢	1		1	1	18	4	90
	腸管出血性大腸菌感染症	37	17	13	19	200	184	2,019
	腸チフス					13		39
	パラチフス	1				16		35
四類	E型肝炎			1		22	1	83
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎		1		1	16	1	95
	エキノコックス症							12
	黄熱							
	オウム病					2		7
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱					3		3
	狂犬病							
	コクシジオイデス症					3		3
	サル痘							
	重症熱性血小板減少症候群 *3							34
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱					3	1	9
	つつが虫病					1		142
デング熱	1	1	2	5	36	11	131	
東部ウマ脳炎								
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)								
ニパウイルス感染症								
日本紅斑熱						1	63	
日本脳炎								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		30週	31週	32週	33週	年累計	33週	年累計
四 類	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							2
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症							
	マラリア				1	6	1	27
	野兔病							
	ライム病		1			2		7
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽					1		2
	レジオネラ症	1	2	3	1	46	31	647
	レプトスピラ症					1		7
	ロッキー山紅斑熱							
2013/8/21集計								

*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 2013年5月6日より新たに追加指定された。

*3 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。2013年3月4日より新たに追加指定された。

(全数把握対象疾患のコメント・一類～四類)

〈二類感染症〉

結核 65件 肺結核 37件、その他の結核 11件、肺結核及びその他の結核 3件、無症状病原体保有者 14件、年齢は20代 6件、30代 3件、40代 8件、50代 14件、60代 13件、70代 7件、80代 13件、90歳以上 1件、推定感染地は国内 62件、タイ 2件、ベトナム 1件であった。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 1件 患者、年齢は5歳未満、菌種はボイド、推定感染地は国内、推定感染経路はその他(不明)であった。

腸管出血性大腸菌感染症 19件 患者 16件(うちHUS 2件)、無症状病原体保有者 3件、血清型・毒素型はO157 VT1・VT2 8件、O157 VT2 3件、O103 VT1 2件、O26 VT1 2件、O145 VT1・VT2 1件、O157 VT(型不明) 1件、便でのベロ毒素の検出 2件、年齢は5歳未満 6件、10代 4件、20代 4件、30代 1件、40代 1件、60代 2件、70代 1件、推定感染地は国内 19件、推定感染経路は経口感染 5件、接触感染 3件、経口感染又は接触感染 1件、その他(不明) 10件であった。3事例(O103 VT1 2件、O26 VT1 1件)は、保育園での集団発生関連の事例であった。

〈四類感染症〉

A型肝炎 1件 患者、年齢は40代、推定感染地はケニア、推定感染経路は経口感染であった。

デング熱 5件 患者 5件、年齢は10代 1件、20代 1件、30代 2件、40代 1件、推定感染地はインドネシア 2件、タイ 2件、シンガポール 1件であった。

マラリア 1件 患者、年齢は40代、病型は熱帯熱、推定感染地はガボンであった。

レジオネラ症 1件 ポンティアック熱型、年齢80代、推定感染地は国内、推定感染経路はその他(不明)であった。

全数把握対象疾患 報告数（五類） 2013年33週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		30週	31週	32週	33週	年累計	33週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	5	5	3	4	128	14	651
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)	3	2	4	1	50	2	178
	急性脳炎 *1	1				32	1	243
	クリプトスポリジウム症		1			2		11
	クロイツフェルト・ヤコブ病			1		10	2	129
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症					22		134
	後天性免疫不全症候群	15	7	5	4	295	15	949
	ジアルジア症					13	1	45
	侵襲性インフルエンザ菌感染症 *2		1			6	2	61
	侵襲性髄膜炎菌感染症 *2					6		14
	侵襲性肺炎球菌感染症 *2	1	3	1	4	59	9	520
	髄膜炎菌性髄膜炎 *3	/	/	/	/			2
	先天性風しん症候群	1		2		6		11
	梅毒	15	10	9	6	256	25	743
	破傷風					3	2	82
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症				1	7	1	37
	風しん	56	38	38	24	3,303	61	13,747
麻しん	1	2	1		56	6	187	
2013/8/21集計								

*1 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

*2 2013年4月1日より新たに追加指定された。

*3 2013年4月1日より指定が解除された。

（全数把握対象疾患のコメント・五類）

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 4件 腸管 2件、腸管外 2件、年齢は40代 1件、50代 2件、60代 1件、推定感染地は国内 2件、インド 1件、インドネシア 1件、推定感染経路は経口感染 2件、その他(不明) 2件であった。

ウイルス性肝炎 1件 B型、年齢は40代、推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(異性間)であった。

後天性免疫不全症候群 4件 AIDS 1件、無症候キャリア 2件、その他 1件、AIDS患者の年齢は60代、無症候キャリア及びその他の年齢は30代 2件、40代 1件、推定感染地は国内 4件、推定感染経路は性的接触 4件(同性間 3件、異性間 1件)であった。

侵襲性肺炎球菌感染症 4件 血清型は未実施 4件、年齢は50代 1件、60代 1件、80代 2件、推定感染地は国内 4件、推定感染経路は接触感染 1件、その他(不明) 3件、肺炎球菌ワクチン接種歴は接種なし 2件、接種不明 2件であった。

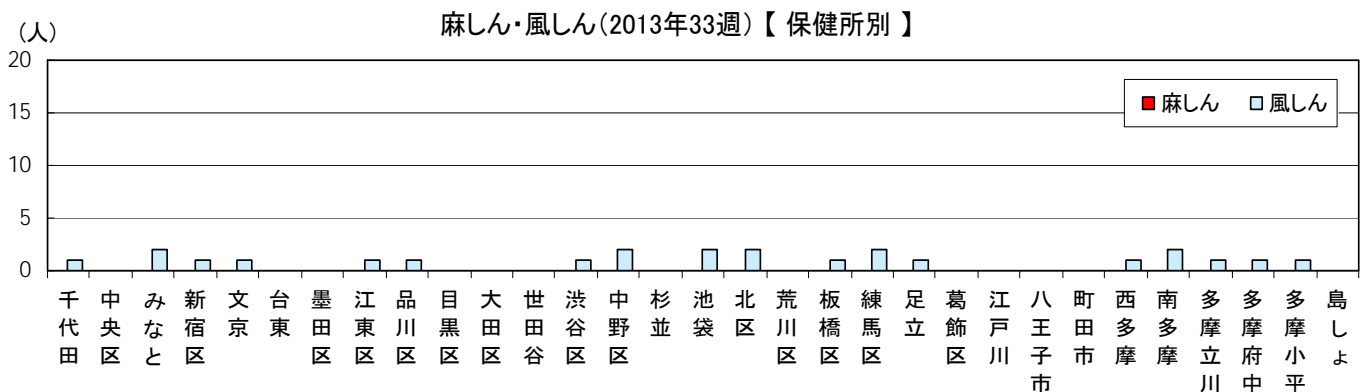
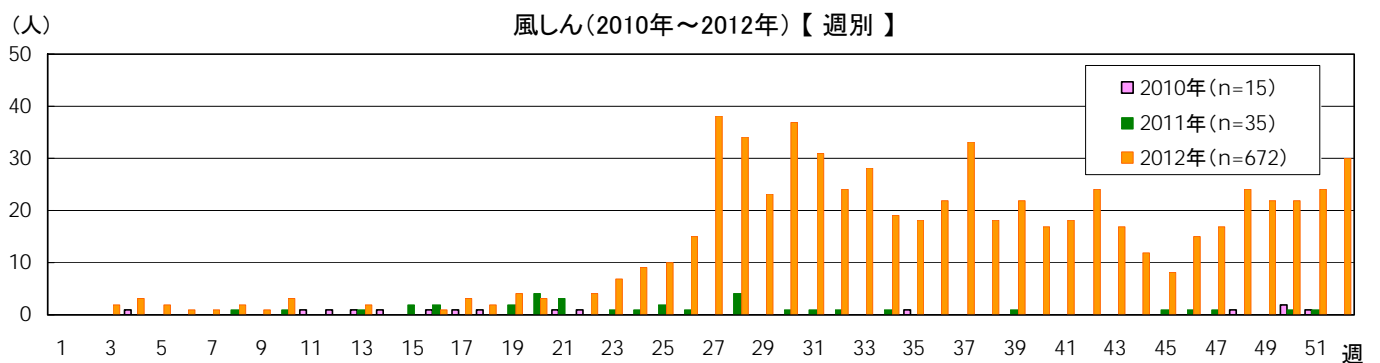
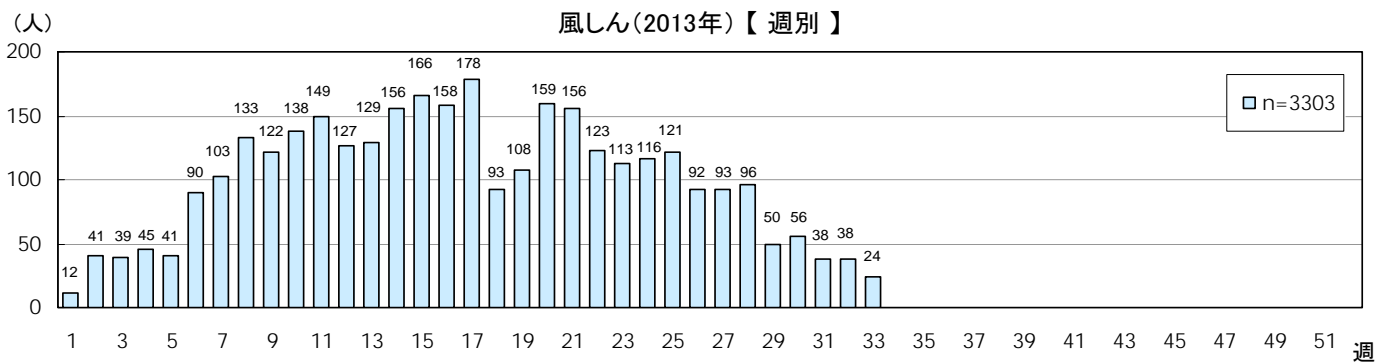
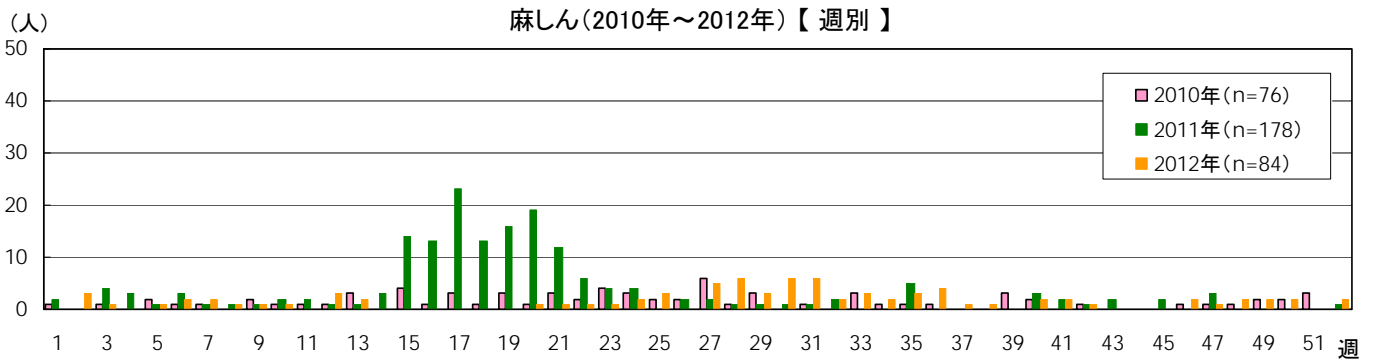
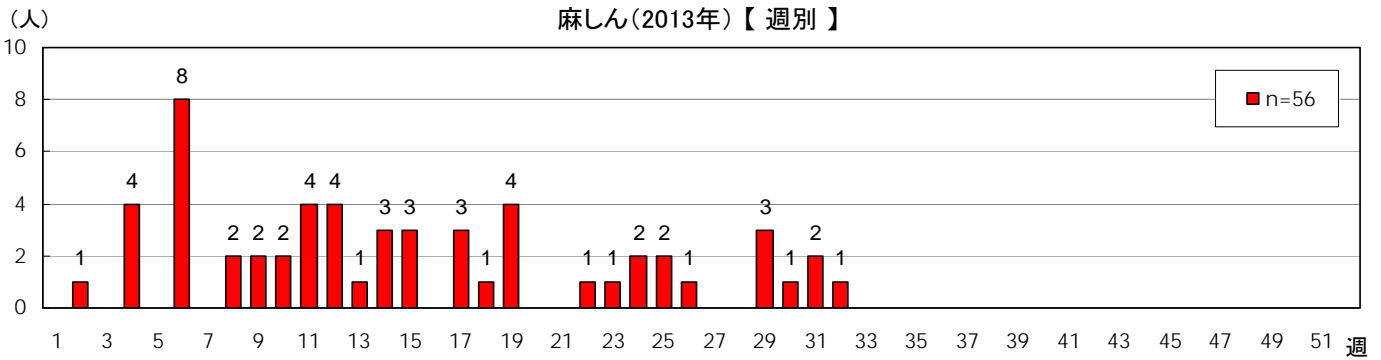
梅毒 6件 早期顕症梅毒Ⅱ期 3件、無症候梅毒 3件、年齢は20代 3件、30代 1件、40代 1件、50代 1件、推定感染地は国内 6件、推定感染経路は性的接触 5件(同性間 4件、異性間 1件)、その他(不明) 1件であった。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1件 遺伝子型は*vanA*、年齢は70代、推定感染地は国内、推定感染経路は接触感染又はその他であった。

風しん 24件 検査診断例 19件、臨床診断例 5件、年齢は5歳未満 1件、10代 1件、20代 4件、30代 6件、40代 5件、50代 5件、60代 1件、70代 1件、推定感染地は国内 24件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 13件、接触感染 4件、その他(不明) 7件、風しん含有ワクチン接種歴は1回接種 2件、接種なし 6件、不明 16件であった。

※ 第32週該当分として〔五類〕侵襲性肺炎球菌感染症 1件、風しん 1件の追加報告があった。

全数把握対象疾患(麻しん・風しん)報告数(週別・保健所別)



定点把握対象疾患 報告数 2013年33週

定点種別	対象疾患	2013年					報告医療機関数	定点医療機関数
		30週	31週	32週	33週	定点当たり		
小児科	RSウイルス感染症	55	93	133	89	0.45	198	264
	咽頭結膜熱	172	142	122	93	0.47		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	352	260	243	141	0.71		
	感染性胃腸炎	899	869	756	342	1.73		
	水痘	161	146	130	106	0.54		
	手足口病	4,126	3,648	3,021	1,268	6.40		
	伝染性紅斑	16	30	32	9	0.05		
	突発性発しん	163	171	149	82	0.41		
	百日咳	4	2	5				
	ヘルパンギーナ	1,208	1,037	799	281	1.42		
	流行性耳下腺炎	49	59	41	23	0.12		
	川崎病(注1)	2	2	2	1	0.01		
	不明発しん症(注1)	29	33	29	20	0.10		
インフルエンザ	インフルエンザ(注2)	2	9	5	2	0.01	334	419
眼科	急性出血性結膜炎						30	39
	流行性角結膜炎	21	23	26	9	0.30		
基幹	細菌性髄膜炎(注3)	2			1	0.04	25	25
	無菌性髄膜炎	7	6	3	2	0.08		
	マイコプラズマ肺炎	12	16	8	7	0.28		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)				2	0.08		
	インフルエンザ入院(注4)	1						
2013/8/21集計								

- (注1) 不明発しん症、川崎病は東京都が独自に指定する疾患である。
 (注2) 鳥インフルエンザを除く。
 (注3) インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。
 (注4) 2011年36週より開始

(今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・RSウイルス感染症の定点当たり報告数は減少したが、過去5年平均と比較して高い値で推移している。
- ・手足口病の定点当たり報告数は減少したが、27週から引き続き流行警報基準を超えている。

(小児科・内科定点医療機関からのコメント)

墨田区

- ・夏休み休診に入っているため件数が少なくなっています。

世田谷区

- ・マイコプラズマ感染症 2名。

北区

- ・手足口病が2回目の子供が増えてきました。

荒川区

- ・病原性大腸菌O18 1名。

葛飾区

- ・感染性胃腸炎のうち、1歳児はアデノウイルス陽性でした。
- ・アデノウイルス扁桃炎(5歳児)。

八王子市

- ・アデノウイルス咽頭炎(1歳児、4歳児)。

多摩小平

- ・病原性大腸菌 5名、アデノウイルス腸炎 1名、サルモネラ 1名。
- ・ヘルパンギーナの1名は、手足口病の皮疹も認めた。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2013年33週

定点種別	小児科										
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
～5か月	15			5	1	25		3		2	
～1歳	25	1	3	39	12	143		25		28	
1歳	38	18	7	72	17	425	2	46		71	
2歳	9	8	16	48	15	274	1	6		53	1
3歳	2	14	16	28	15	130	3	2		46	1
4歳		15	25	26	17	85	1			31	7
5歳		14	16	23	16	64				18	4
6歳		7	12	11	9	28	1			9	1
7歳		4	9	15		21				6	3
8歳		2	9	20	2	14	1			5	
9歳		1	4	7	1	7				3	2
10～14歳		5	20	21	1	20				6	2
15～19歳		1	1	5		1					1
20～29歳		3	3	22		31				3	1
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	89	93	141	342	106	1,268	9	82		281	23
先週比	-44	-29	-102	-414	-24	-1,753	-23	-67	-5	-518	-18

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹				
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	インフルエンザ入院
～5か月		1								
～1歳		6								
1歳		9			1			1		
2歳		2								
3歳					1			2	1	
4歳										
5歳	1				1					
6歳										
7歳										
8歳							1			
9歳										
10～14歳		1								
15～19歳		1						1		
20～29歳					2			2		
30～39歳					1		1		1	
40～49歳			2		2			1		
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳					1					
80歳以上						1				
合計	1	20	2		9	1	2	7	2	
先週比	-1	-9	-3		-17	1	-1	-1	2	

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2013年33週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田			0.33			2.00				2.33
中央区						1.00				1.33
みなと	2.67	1.00		3.00	1.00	11.33		0.67		0.67
新宿区	1.38	1.38	0.88	0.38	0.38	4.38		0.25		0.75
文京		1.50		1.50		2.00				2.50
台東	2.00		1.00	2.00			1.00			1.00
墨田区			0.67	0.67		9.00		0.67		1.00
江東区	0.89	0.11	0.78	4.44	0.11	5.89		0.56		0.56
品川区			0.38	1.75	0.25	4.63		0.13		1.25
目黒区				1.25	0.50	2.50		0.25		
大田区	1.14	1.29	1.00	4.00	0.43	8.43		0.43		3.29
世田谷	0.18	0.36	0.64	1.73	0.45	9.18		0.27		2.73
渋谷区		0.25	0.25	0.25		3.75		0.25		
中野区			0.14	1.29	0.14	6.86				1.29
杉並			0.29			4.57		0.29		0.29
池袋		0.33	1.00			3.00				2.33
北区	0.14		0.29	0.14	0.29	3.57		0.14		
荒川区	0.50	0.50		0.50		11.00	0.50	0.50		1.00
板橋区	0.25		0.50		0.25	10.00	0.50	1.00		0.50
練馬区		1.20	0.40	0.20	1.20	3.00		1.00		2.40
足立	0.27	0.27	0.55	3.09	0.27	6.00		0.27		1.73
葛飾区		0.25		3.75	0.50	8.50	0.25	0.75		1.00
江戸川	1.20	1.00	1.20	2.60	0.80	6.30	0.10	0.50		1.60
八王子市	1.43	0.86	2.00	4.29	0.57	15.57	0.14	0.86		4.29
町田市	0.50	2.38	4.50	2.75	0.88	5.13	0.13	0.75		2.75
西多摩			0.20	1.00	0.80	13.60				0.60
南多摩		0.17	1.67	2.83	1.17	7.67	0.17	0.83		1.33
多摩立川	0.31	0.31	0.38	0.77	0.23	3.85				0.38
多摩府中		0.18	0.24	0.94	0.94	6.82		0.53		1.18
多摩小平	0.93	0.40	0.33	1.93	1.53	5.87		0.80		1.27
島しょ						12.00				5.00
東京都	0.45	0.47	0.71	1.73	0.54	6.40	0.05	0.41		1.42

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科		基幹				
	流行性 耳下腺炎	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	インフル エンザ 入院
千代田											
中央区											
みなと									1.00		
新宿区						1.00			0.50		
文京						2.00	1.00				
台東											
墨田区								2.00			
江東区			0.11								
品川区											
目黒区											
大田区	0.14		0.86								
世田谷	0.09		0.18								
渋谷区						2.00					
中野区	0.14										
杉並											
池袋											
北区											
荒川区											
板橋区	0.25		0.50								
練馬区											
足立	0.18			0.11							
葛飾区	0.25							2.00	1.00		
江戸川	0.50	0.10	0.10			0.50					
八王子市			0.14			1.00				1.00	
町田市	0.38		0.38								
西多摩	0.60										
南多摩	0.33										
多摩立川											
多摩府中	0.18					0.33			0.67		
多摩小平			0.27			0.50			0.50		
島しょ											

東京都	0.12	0.01	0.10	0.01		0.30	0.04	0.08	0.28	0.08	
-----	------	------	------	------	--	------	------	------	------	------	--

定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2013年33週

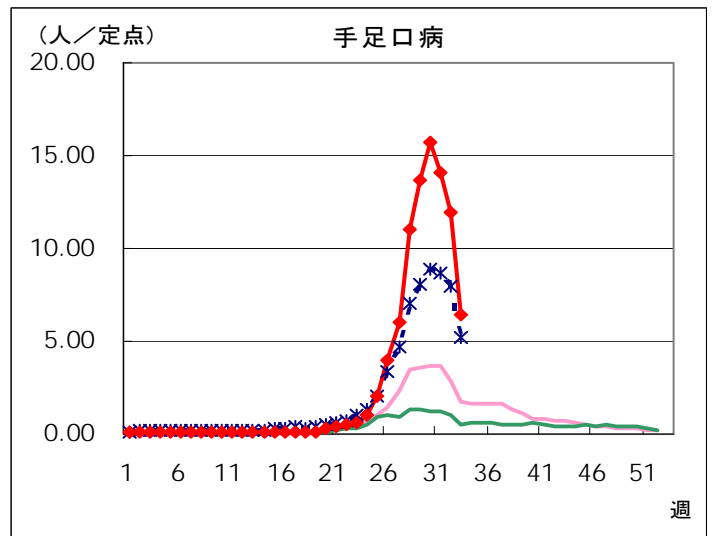
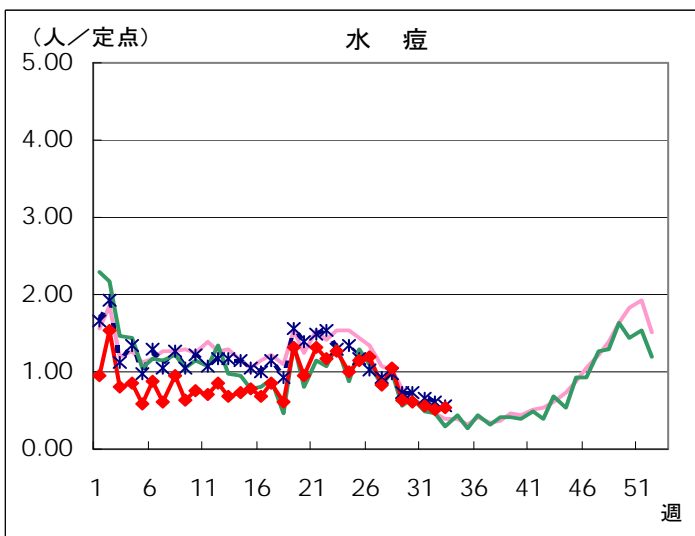
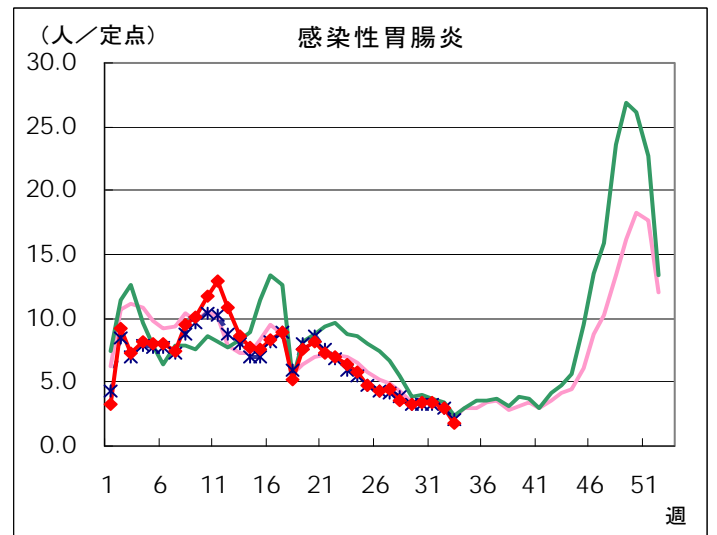
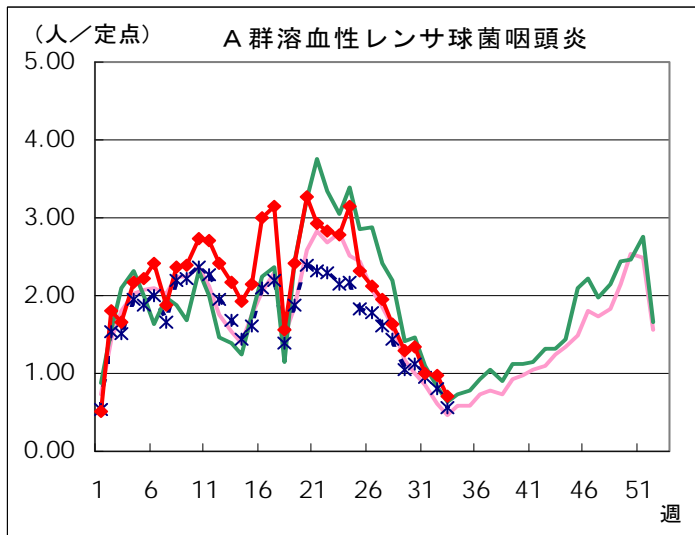
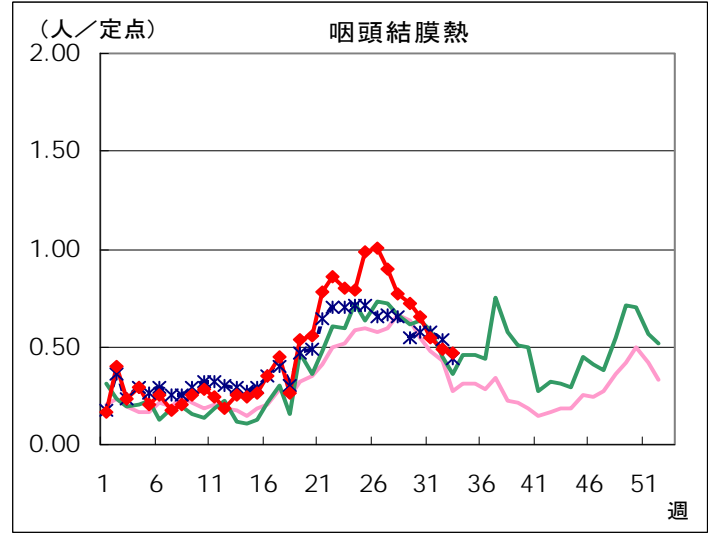
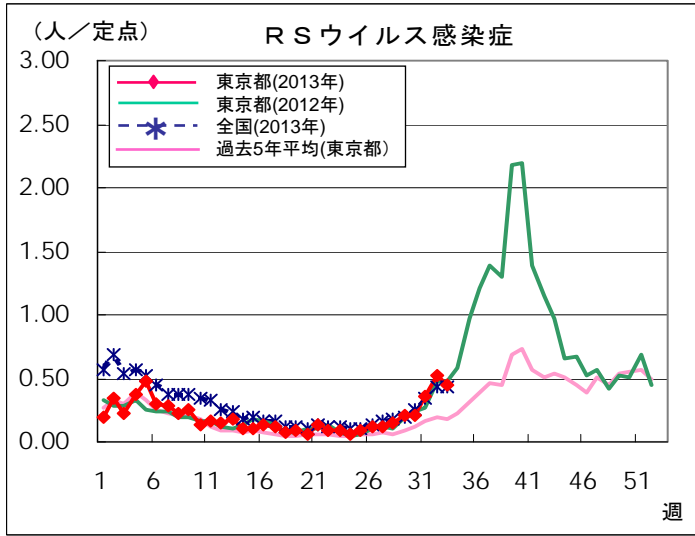
定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田			1			6				7
中央区						3				4
みなと	8	3		9	3	34		2		2
新宿区	11	11	7	3	3	35		2		6
文京		3		3		4				5
台東	2		1	2			1			1
墨田区			2	2		27		2		3
江東区	8	1	7	40	1	53		5		5
品川区			3	14	2	37		1		10
目黒区				5	2	10		1		
大田区	8	9	7	28	3	59		3		23
世田谷	2	4	7	19	5	101		3		30
渋谷区		1	1	1		15		1		
中野区			1	9	1	48				9
杉並			2			32		2		2
池袋		1	3			9				7
北区	1		2	1	2	25		1		
荒川区	1	1		1		22	1	1		2
板橋区	1		2		1	40	2	4		2
練馬区		6	2	1	6	15		5		12
足立	3	3	6	34	3	66		3		19
葛飾区		1		15	2	34	1	3		4
江戸川	12	10	12	26	8	63	1	5		16
八王子市	10	6	14	30	4	109	1	6		30
町田市	4	19	36	22	7	41	1	6		22
西多摩			1	5	4	68				3
南多摩		1	10	17	7	46	1	5		8
多摩立川	4	4	5	10	3	50				5
多摩府中		3	4	16	16	116		9		20
多摩小平	14	6	5	29	23	88		12		19
島しょ						12				5
東京都合計	89	93	141	342	106	1,268	9	82		281

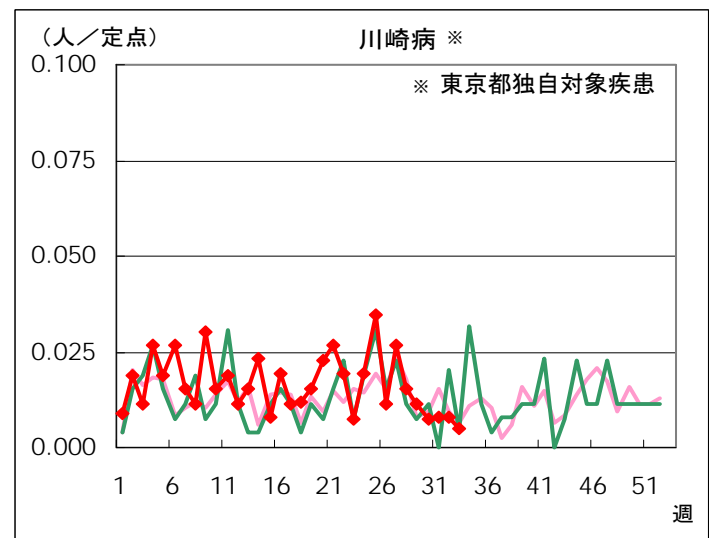
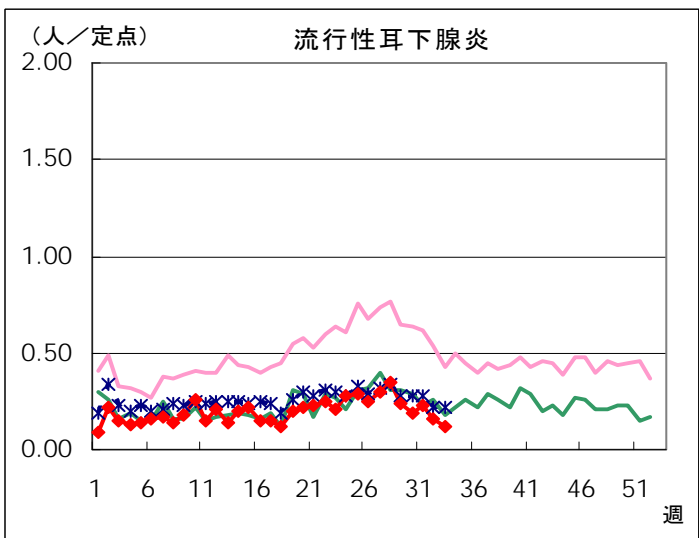
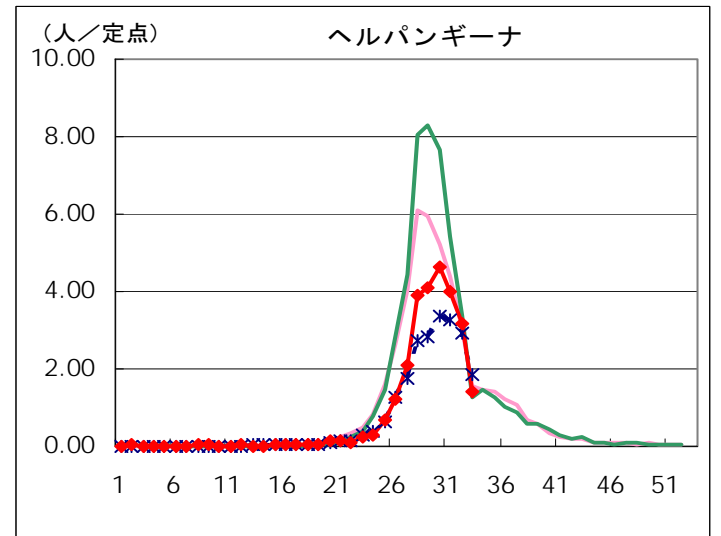
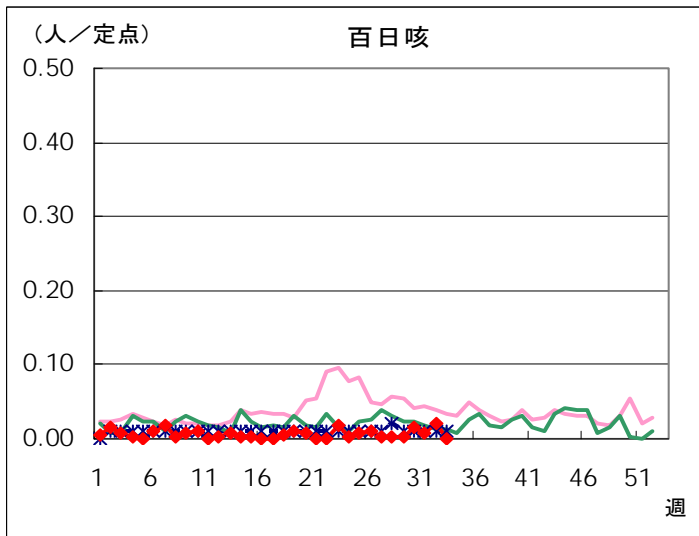
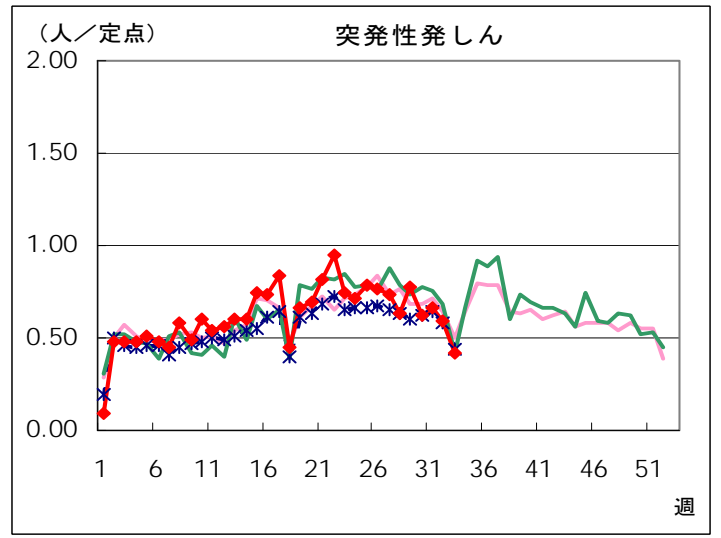
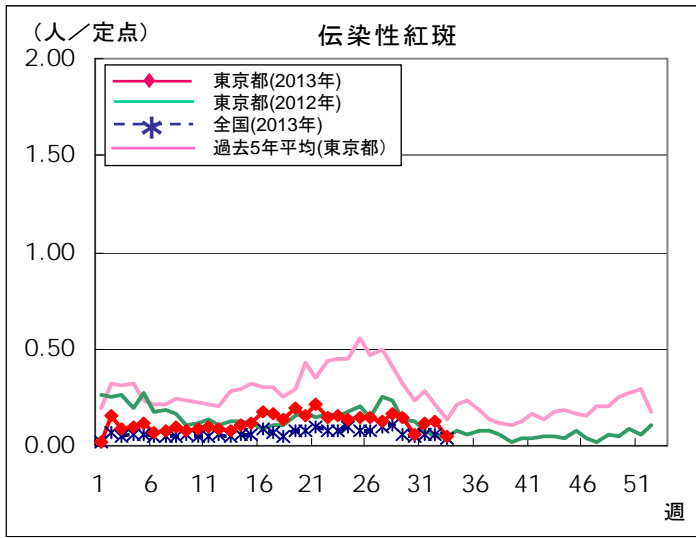
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科		基幹				
	流行性 耳下腺炎	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	インフル エンザ 入院
千代田											
中央区											
みなと									1		
新宿区						1			1		
文京						2	1				
台東											
墨田区								2			
江東区			1								
品川区											
目黒区											
大田区	1		6								
世田谷	1		2								
渋谷区						2					
中野区	1										
杉並											
池袋											
北区											
荒川区											
板橋区	1		2								
練馬区											
足立	2			2							
葛飾区	1								2	1	
江戸川	5	1	1			1					
八王子市			1			1				1	
町田市	3		3								
西多摩	3										
南多摩	2										
多摩立川											
多摩府中	3					1			2		
多摩小平			4			1			1		
島しょ											

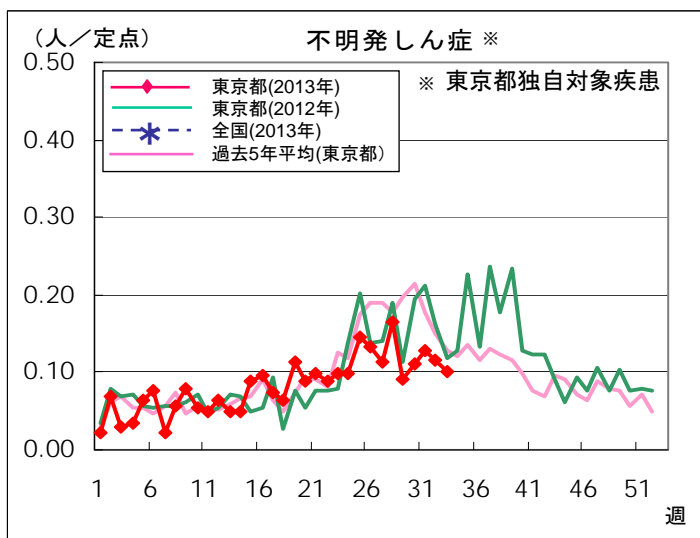
東京都合計	23	1	20	2		9	1	2	7	2	
-------	----	---	----	---	--	---	---	---	---	---	--

定点把握対象疾患 週別報告数(2013年33週 現在)

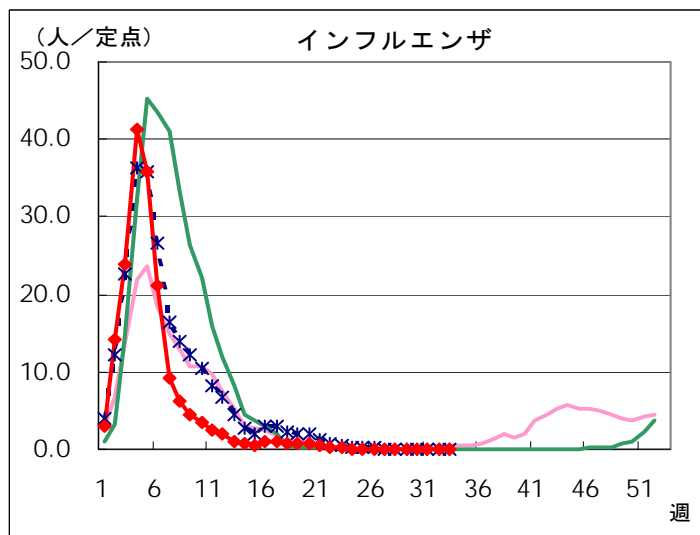
◆ 小児科定点



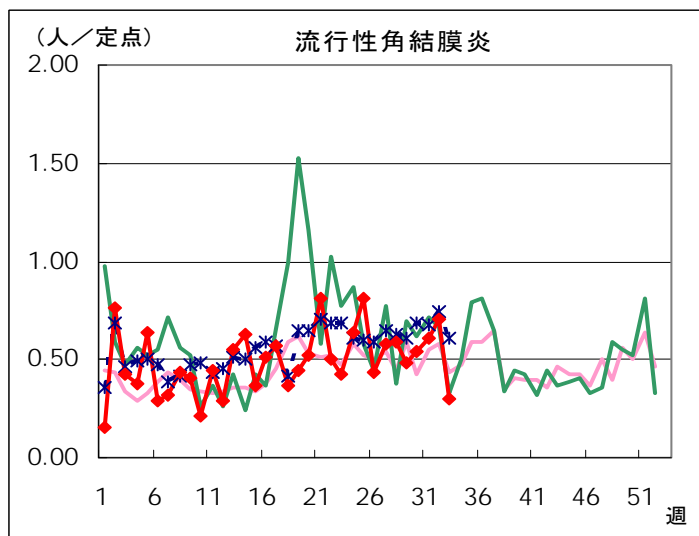
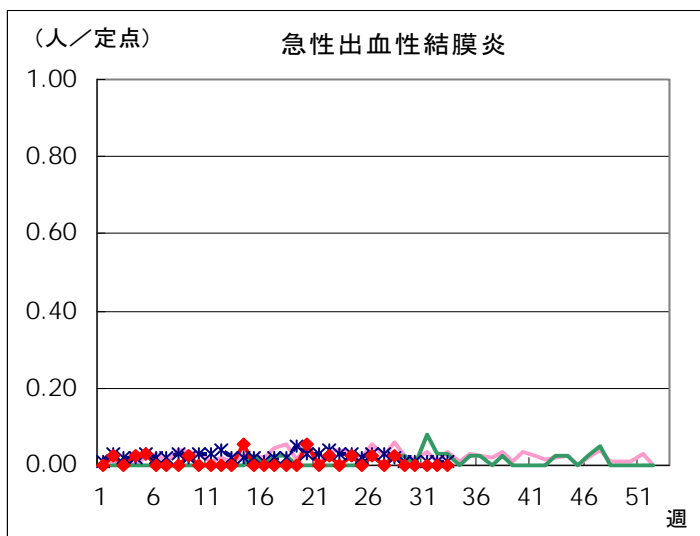




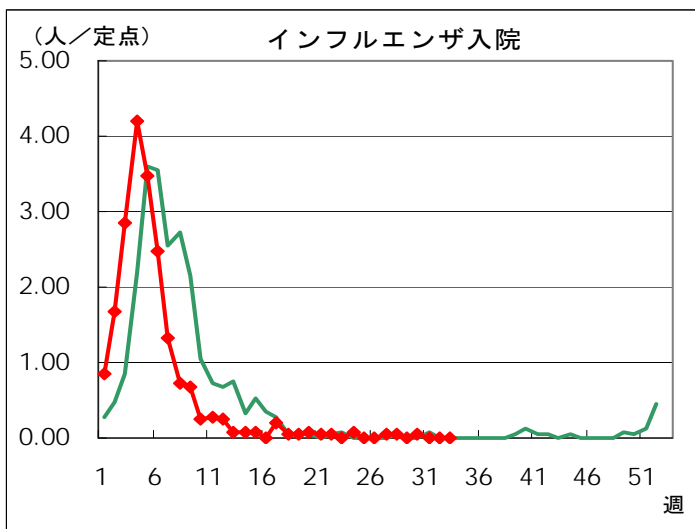
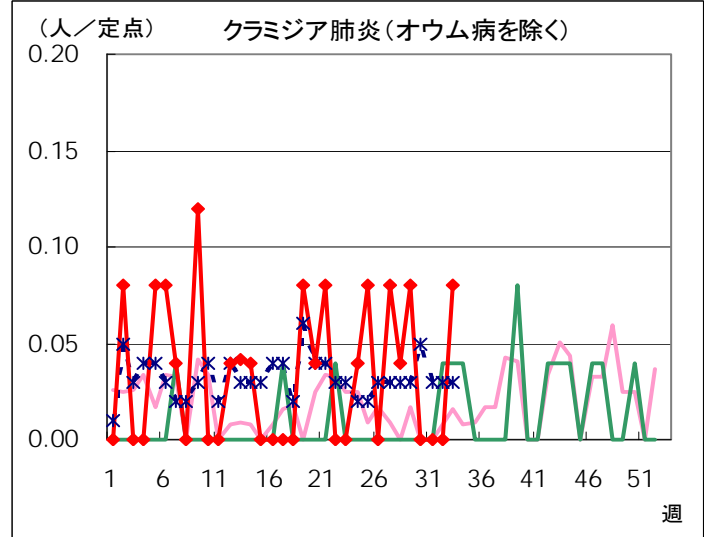
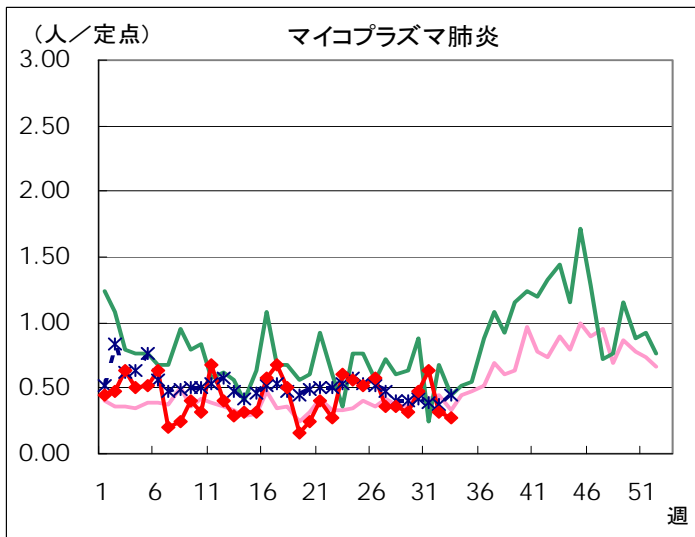
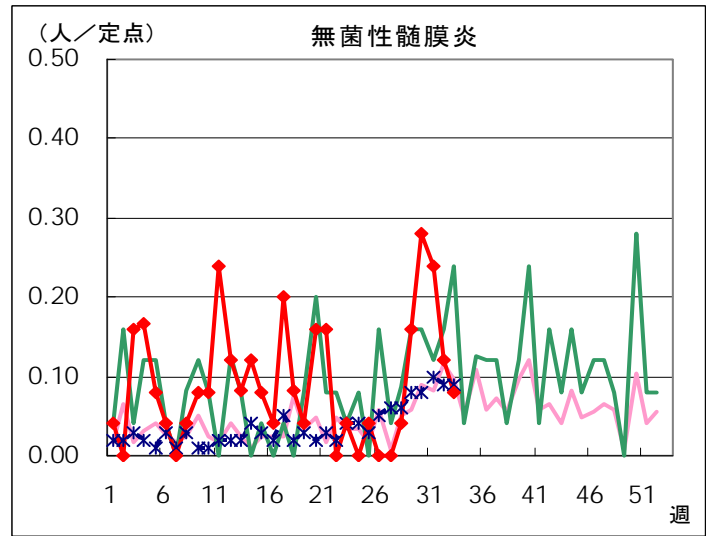
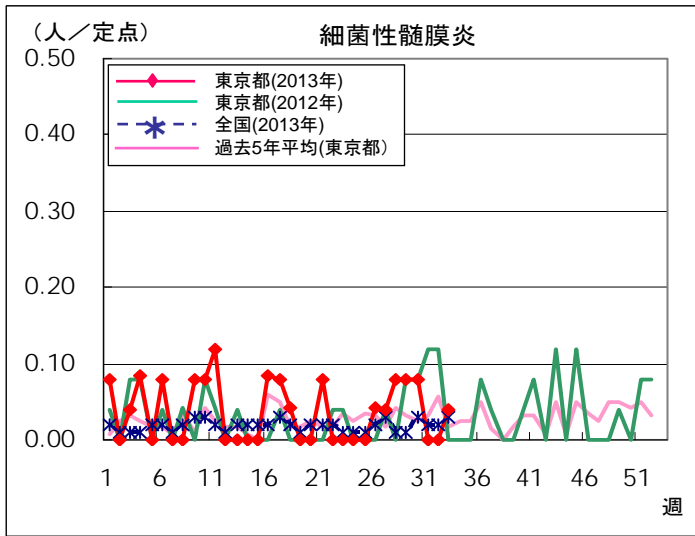
◆ インフルエンザ定点



◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



定点(病原体)医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
8/6	ウイルス性髄膜炎	19D	髄液	コクサッキーウイルス B群3型	遺伝子
8/5	ヘルペス脳炎	20D	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス B群3型	
8/1	発熱 不明発しん症	1M	糞便	コクサッキーウイルス A群2型	
8/5	無菌性髄膜炎	2M	髄液	コクサッキーウイルス B群3型	
8/5	無菌性髄膜炎	2M	髄液	エコーウイルス 25型	
8/6	喘息性気管支炎	7M	鼻汁	RSウイルス	
8/6	RSウイルス感染症	9M	鼻汁	RSウイルス エンテロウイルス 71型	
8/8	手足口病	9M	咽頭拭い液	エンテロウイルス 71型	
8/3	手足口病	11M	鼻汁	コクサッキーウイルス A群6型	
8/2	ヘルパンギーナ	11M	咽頭拭い液	アデノウイルス コクサッキーウイルス A群6型	
7/31	急性脳症	0	糞便	アデノウイルス コクサッキーウイルス A群6型	
7/25	心筋炎 髄膜炎	0	髄液	コクサッキーウイルス B群4型	
7/29			血清	エンテロウイルス	
8/3	咽頭結膜熱	1	鼻汁	エンテロウイルス	
7/30	喘息性気管支炎	1	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス 1型	
7/30	手足口病	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群6型	
8/2	手足口病	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群6型	
8/2	手足口病	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型 コクサッキーウイルス A群6型	
8/5	手足口病	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型 ヒトヘルペスウイルス 7型 コクサッキーウイルス A群6型	
8/5	不明発しん症	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A9型	
8/6	不明発しん症	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス ヒトヘルペスウイルス 6型	
8/9	不明発しん症	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群6型	
8/3	咽頭結膜熱	2	鼻汁	アデノウイルス	

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
8/5	仮性クループ	2	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス 2型	遺伝子
8/5	手足口病	2	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群6型	
8/7	突発性発しん	2	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群6型	
8/1	不明発しん症	2	咽頭拭い液	エコーウイルス 18型	
8/6	手足口病	3	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群6型	
8/1	脳炎	3	咽頭拭い液	アデノウイルス	
8/5	咽頭結膜熱	4	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス B群3型	
8/8	急性咽頭炎	4	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス 1型	
8/1	アデノウイルス感染症	5	咽頭拭い液	アデノウイルス コクサッキーウイルス A群6型	
8/8	不明発しん症	5	咽頭拭い液	エコーウイルス 25型	
7/31	水痘 手足口病	6	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群6型	
8/3	流行性耳下腺炎	8	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
8/5	流行性耳下腺炎 EBウイルス感染症	10	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス B群3型	
8/5	ヘルパンギーナ	18	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群6型	
8/6	手足口病	30	直腸拭い液	コクサッキーウイルス A群6型	
8/6	手足口病疑い	34	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群6型	
8/7	新生児発熱	記載なし	髄液	コクサッキーウイルス B群5型	

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数 ※「32週」は全て0件でした。

検出件数	AH1pdm09*型	AH1型	AH3型	B型
32週				
2012-2013年 シーズン累計**	2		245	69

* 2011年4月1日から新型インフルエンザ(AH1N1pdm)が季節性インフルエンザに移行されたため、表記を AH1pdm09 とします。

** 2012-2013シーズンの開始は第36週(2012年9月3日～)

病原体検査情報 【検出病原体別・週別】

検出病原体		2013年							
		25週	26週	27週	28週	29週	30週	31週	32週
ウイルス	アデノウイルス	2	1	4	3	1	3	2	5
	ライノウイルス	4	3	5	2	2	2	4	
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群	4	7	12	20	19	13	18	20
	コクサッキーウイルスB群				1	2		1	7
	エコーウイルス						3		3
	エンテロウイルス71		1	3	1	2	2	2	2
	その他のエンテロウイルス				1	2	2	2	4
	単純ヘルペスウイルス								
	水痘・帯状疱疹ウイルス					1	1	2	
	ヘルペスウイルス6/7	6	5	6	12	11	8	10	4
	EBウイルス	6		1	1	1	2		
	サイトメガロウイルス	1			1	1	1		
	ムンプスウイルス	4							
	麻疹ウイルス								
	風疹ウイルス	1			2	1			
	パルボウイルスB19								
	RSウイルス		1	3	1	1	4		2
	ノロウイルス	1				1		1	
	ロタウイルス								
	インフルエンザウイルスAH1								
	インフルエンザウイルスAH3	1			2				
	インフルエンザウイルスB	2	1						
	インフルエンザウイルスAH1pdm09								
	デングウイルス(抗体を含む)	1							
	その他のウイルス	13	11	14	4	5	3	1	3
細菌	カンピロバクター		1			1			
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌								
	百日咳								
	マイコプラズマ								
	その他の細菌								
その他の病原体									

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2013年25週～2013年32週

臨床診断名 検出病原体		インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他	
搬入検体数		9	53	52	27	61	12		3	13	88	1	46	16	3		3	77	
ウイルス	アデノウイルス		4	1	1	1	3		2	1	1		2	1				4	
	ライノウイルス	1	4	5	1	1	1				2		3	4					
	ポリオウイルス																		
	コクサッキーウイルスA群	2	4	1			2		1	7	69		15	1	1			10	
	コクサッキーウイルスB群					7	1							1				2	
	エコーウイルス					2				1			2					1	
	エンテロウイルス71		2	1			1				7		1				1		
	その他のエンテロウイルス			1		5	1						2	1				1	
	単純ヘルペスウイルス																		
	水痘・帯状疱疹しんウイルス										1		1		2				
	ヘルペスウイルス6/7		2			3					33		17						7
	EBウイルス					1					1			5					4
	サイトメガロウイルス					1				2				1					
	ムンプスウイルス					1								2					1
	麻疹しんウイルス																		
	風しんウイルス													4					
	パルボウイルスB19																		
	RSウイルス		2	10															
	ノロウイルス				3														
	ロタウイルス																		
	インフルエンザウイルスAH1																		
インフルエンザウイルスAH3	3																		
インフルエンザウイルスB	2		1																
インフルエンザウイルスAH1pdm09																			
デングウイルス (抗体を含む)																		1	
その他のウイルス		20	26	3		2				1	1		1						
細菌	カンピロバクター				2														
	サルモネラ																		
	腸管出血性大腸菌																		
	その他の腸管系病原菌																		
	溶血性レンサ球菌																		
	百日咳																		
	マイコプラズマ																		
	その他の細菌																		
その他の病原体																			

<感染症豆知識>

鶏肉の生食と食中毒

夏季に入り細菌性食中毒の発生ピークを迎えている。都内においては、例年よりも発生件数は少ないものの、今年も6月からカンピロバクター食中毒の発生が増えている。

原因となる食品は、鶏肉または鶏レバーの生食によると考えられるものが多くを占め、平成24年に発生した42件中17件で、また本年の7件中5件で患者がそれらを喫食していた。鶏肉からのカンピロバクターの検出率は、各種の報告により10～90%と幅があるが、いずれにしても比較的高率に当該菌が付着していると推察される。

こうした鶏肉料理の喫食に伴うカンピロバクター食中毒のリスクについて、平成21年に内閣府の食品安全委員会が評価を行っている。それによると、1食あたりの感染確立の平均値は、鶏肉を生食する人は家庭で1.97%、飲食店では5.36%、生食しない人は家庭で0.20%、飲食店で0.07%あり、一人当たり年間平均感染回数は、生食する人で3.42回/年、生食しない人で0.364回/年であった。これから、平均延べ約1.5億人が年間に感染すると推定され、うち80%が生食する人で占められていることが示された。

現在、食品衛生法で鶏肉の生食を禁止する規定はない。都では、様々な媒体や機会を通じて消費者へ鶏肉の生食によるリスクを周知するとともに、飲食店へ生食の提供を自粛するよう指導を行っている。しかし、昨年、牛のレバ刺しが法で禁止されたことにより、法規制のない鶏肉や豚肉へメニューをシフトする店もある。最終的には、消費者の選択に委ねられるとは云え、少なくとも重症化しやすい子どもや高齢者は食肉の生食を控えるよう徹底したい。

(文責 東京都福祉保健局 中村重信)